

井上医院訪問診療の紹介

当院では状态的に通院が困難な患者様を対象に医師がご自宅へ訪問し診察を行っております。月1~2回計画的・定期的に診療を継続する訪問診療と熱が出たり、眩暈がするなどの突発的な急変時に患者様の求めに応じて診療する往診とがあります。

午前診察終了後、昼食休憩をとり、午後2時過ぎ頃に医院を出発します。看護師が同行し診察の補助を行ないます。



ご自宅では、血圧や酸素飽和濃度などを測定し医師が診察をさせていただきます。採血や傷の処置、胃瘻チューブの交換、点滴も行います。状態により心電図検査も可能です。また、発熱患者様には鼻から綿棒を挿入し咽頭ぬぐい液を採取させて頂きインフルエンザやコロナ抗原検査を施行することもできます。

ご自宅で最期を迎えたいという患者様の在宅看取りもさせて頂いております。

訪問診療においては、時間外や休日に体調が急変された場合などにも連絡・相談ができる体制を整えています。

訪問診療についてご質問等ございましたら、いつでも当院までご相談下さい。



節子の部屋

【87歳 古い団地で愉しむ ひとりの暮らし：多良美智子 著】

「自由に使える時間が贅沢にある。長生きのご褒美ですね。」

■ できることは自分で、頼る所は有難く頼って、1日でも長く今の生活を続けられたらと思っている。介護は必要な体になっても、在宅介護ヘルパーさんに来てもらって出来る限りひとり暮らしを続けるつもり。

■ 夫の介護のとき、訪問診療からお掃除サービスまで外部の力を借りれば、在宅でも十分にやっていけると分かった。

■ だから、先々に不安無く「この部屋で死ぬ」と思っています。「どうにかなる」で、くよくよ悩まずに！！実際に人生どうにかなるもの・・・と締めくくっている。

著者の多良さんは、若い時から普通の暮らしの中での生き方に思いを持って生きてこられた方なのでしょう。だからこそ年を重ねても、このような生き方ができるのです。

人生いろいろ、ご興味があつたら本を手にとって下さい。元気になる一冊でした。

※今回から私のコラムは「徹子の部屋」いえいえ「節子の部屋」となり、恐れ多いことです。これからも自分の思いを伝えていきます。

お知らせ（待合室からFELICEへ）

令和4年夏という中途半端な時期ですが、待合室からFELICEへ紙面を一新しました。

「FELICE」と書いて「フェリーチェ」と読みます。イタリア語で【幸福・嬉しい・楽しい】という意味があります。患者様・ご利用者様が、幸せな気持ちで在宅生活を送ることができるように応援したいとの願いから名前を変更しました。

ご希望の記事などがあれば、【Casa：田中】まで

FELICE

2022. Vol1

食事＝『命の継続』

管理栄養士：岡崎

カーサの食事は皆様に「身体と心の安心と喜びを味わって頂く」ということをいつも心掛けて提供させて頂いております。

具体的には美味しさ・美しさ、懐かしさや季節感で会話が弾む等々…

そして栄養的に自分の食事は過不足がないのだろうかという不安がないということもその一つではないかと思えます

少し専門的なお話になりますが、この栄養的にバランスの取れている食事ということについて説明させて頂きます。

全てにおいて生命活動の第1優先課題とするところは今の命の継続です。栄養的にはエネルギーの確保ということになります。車にガソリンがなければ動かないのと同じように生きるためにはエネルギー源がなければ心臓を動かす事もできません。一番効率よく燃えるエネルギー源は穀類のご飯、麺、パン、芋豆類などに含まれる炭水化物です。一日に必要なエネルギーをこれらの食品から十分摂っていれば肉や魚、卵や大豆製品などから得られるたんぱく質も効率よく活用する事ができ、筋肉や細胞の合成などがスムーズに進みます。

蛋白源を摂る時には消化管に負担がかかりにくい植物性の食品を身体に取り込まれてから効率よく作用する動物性の食品をバランスよく食べることも大切な事となります。



カーサではこの条件を満たしながらモーニングスープ、昼食、お弁当を合せて1日に必要なエネルギータンパク質の80～85%が摂取できるような構成でメニューを組んでいます。

又体の調子を整えるビタミン・ミネラル類、代謝回転の刺激となる繊維質も適度に摂れるような食事となっています。

又、疾患や食欲低下、咀嚼・嚥下への配慮などにも対応もさせて頂いております。

カーサのご利用で皆さまに食事を楽しんで頂けますよう不安なことに対してお話も伺います。小さなことでも声をかけてもらい専門スタッフの力を活用して食事の充実に繋げて頂きたいと思えます。

登山クラブ報告：粟鹿山

医院・カーサ・支援室の職員で【粟鹿山】へ登りました。地元に住んでいるのに、初めて登った職員ばかりでしたが、登った感想は「とても素晴らしい景色」でした。なぜ今ままで登らなかったの？というぐらい良い山でした。



右の写真に妖精が5人いますが、心が綺麗な人しか見えませんよ(笑)。車でも頂上に行けそうなので、機会があれば是非行って下さい。



通所リハをご利用中にお過ごしいただく本館カーサホールは南北約7m、東西19mの135㎡(40坪)の面積があります。天井の最高高は7mです。木造建築ながら天井に柱は1本もありません。ホールを見上げて頂くと8組のそれぞれ角度の異なる木組みがあります(表紙を参照して下さい)。精密な構造計算の上震度7の地震でもびくともしない構造です。

現在木造建築に使用される材木はコンピューターで制御された装置を使って製材工場で刻まれて現場に届きます。カーサの製材もその工程を取り入れる予定でしたが、数十カ所の製材工場に断られ結局奈良県五條市の製材工場が引き受けてくれました。このフレーム(木組み)の工法にはドリフトピンという金具が組み込まれていますが、当地の大工さんたちに経験がないということで五條市から大工さんのチームが当地に滞在して組み立てました。8組のフレームはそれぞれ角度が異なり遠方から見ると屋根は丸みを帯びて見えますが直線の連続です。これは建築事務所のデザインです。

私はデイケアセンターの建築に当たって神戸の先端的な介護施設を見学に行きましたが、天井が平らだと空間的に圧迫感があるように思われ、設計事務所にその点を留意して頂くように依頼しました。

その結果、このような空間が完成しました。四方の壁は漆喰で塗られていますが、わが国でも指折りと言われる名匠・久住章氏のチームが塗り上げました。自然素材で色を出すため、一面を塗るのに深夜までかかっておられました。若い女性の職人さんもおられ、聞くと「7年目だ」そうです。「もう1人前ですか？」と聞くと、久住親方は、「うちでは17年間同じことをしないので7年目ではまだまだ」とのこと左官屋さんも奥が深いことに驚いた次第です。新館ヴィータは少し趣が異なりますが、それは後の号でご説明します。

空調換気装置についても少しご説明します。

当地の気候は冬は寒く、夏は蒸し暑くそれは年々厳しくなっているように感じます。空間は温度、湿度まで管理されて快適で、食事の匂いも瞬時に消えてゆくように要望しました。すると最初の提案では空調関係で7千万円かかるとの試算です。これでは建物ができずに空調だけで終わってしまうことになり、理想からはかなり妥協を要しました。

それでも主要な装置は変わらずこのコロナ禍で大いに役立っています。暖房、冷房時には外の空気を吸い込んで空調して内部に取り込む「処理済み外気導入システム」が窓を開けなくてもよいほどの効果を発揮し、さらにはすべての空間に所謂ロスナイ換気装置が設置され、皆様にお過ごしいただく空間の空気は1時間に3回程度入れ替わる計算です。

ホールのどこにそんな装置があるのか？ 家庭用のエアコンのように壁についているわけはありません。ご質問はいつでもスタッフにお問い合わせください。今回はとても硬い話題でした。



CASAより

Casaにも待望の看護師が入職しました。経験豊富なベテラン看護師です。身体のことや生活のこと、心配なことや不安なことがあれば、是非相談して下さい。



新入職員紹介
山田 麻奈 看護師